

八月五日

桑園グリーンホテルでもバイキングの朝食だ。しかし、ここはぐっと小さくて雰囲気も家族的だ。それに、いかにもこれから仕事に行くふうの、若いビジネスマンが一人で朝食をとっていて、それがいかにもビジネスホテルらしくて微笑ましい。

今夜の宿であるワシントンホテルへチェックインできる時間になるまで、バイクと共に時間を潰さなくてはならない。札幌の近郊を軽く走り回ってみることにする。

まず時計台だ。地図を確かめたつもりだったが迷った。それに何という暑さだろう。北海道に来てから最高の暑さだ。関東の暑さと比べても、少しも遜色が無い。

やっと時計台へたどり着く。ガードレールの縁の歩道側にバイクを止めた。RZ250がツーリング用の荷物をいっぱい積んで止まっていた。時計台の部分が無ければ、ただの古い木造の建物だ。こんなものが札幌の象徴の一つとは情けない。

バイクと時計台を一緒に構図に収めるのが難しい。信号を渡って向こう側の歩道まで行ったりして撮影する。他のツーリスト達も同じようにしていた。

札幌の街はすでにたいへんな人出だ。地元の間か旅行者かは、すぐに見て判る。北海道中の人間がここに集まっているのじゃないか、と思えるほど歩道は人でいっぱい。車道はクルマでいっぱいだった。

時計台のあとは藻岩山を目指す、はじめ道を間違えて何とか記念公園という所へ行ってしまった。

札幌のクルマのマナーの悪さに、そろそろ気付き始めていた。四輪どうしてもそうだが、二輪に対しては特にそうだ。二輪との付き合いに慣れていないこともあるが、基本的にマナーができていないのだろう。札幌駅前なんか急ブレーキとホーンの音がしょっちゅうしている。私にしてみれば急ブレーキをかけるなんて恥なのだが、ここではそうではないのだろう。ともかく札幌は交通マナーの悪い街だ。

しかし暑い。トレーナーの腕を少しまくり上げて走る。

藻岩山ドライブウェイなんて、名前だけ立派で細い山道がうねうねと続いている。ただし、頂上からの眺めはなかなかいい。札幌の市街が一望できる。売店の自動販売機でアンバサを買って飲む。

その後、駐車場でバイクを磨いた。五百キロ以上も走った後だから、ずいぶん汚れていた。ヘッドライトやフロントフォークに至るまで、衝突した虫の死骸と汁がこびりついている。

メッキクリナーで磨かれたメッキ部が太陽に輝く。久しぶりにマシンが美しくなった。

藻岩山から一旦は市街に戻って来たが、ワシントンホテルに電話をしてチェックインの時刻を聞いてみると三時だという。まだ正午を過ぎたばかりだ。時間があり過ぎる。仕方がないから、今度は真駒内へ。そこから羊ヶ丘へ行くつもりだったのだが、自衛隊の駐屯地のあたりで道が判らなくなった。面倒になって、半ばヤケで定山溪のほうへ走ってみた。

トラックだの観光バスだので混雑していた。適当な距離まで行ったらところでガス欠が心配になりＵターンした。山岳路に入ってすぐの辺りまでしか行かなかったことになる。

珍しい外観をした山をバックにバイクの写真を撮った。

相変わらずの交通マナーの悪さにへきえきしながら札幌の駅前まで戻り、ワシントンホテルに行った。駐車場が無い、これだけ立派なホテルなのに！少し頭にきた。

ともかくチェックインしてほっとする。すぐにシャワーを浴びて、ホテルの自販機で買ったビールを飲む。死ぬほど美味かった。それから街へ出て、まず、そばを食った。まだ四時頃だったが考えたら昼飯を食っていなかったのだ。やっと力が出た。

お土産屋に行って絵葉書と木彫りの熊を買った。土産の入った大きな紙袋を持って歩いているのも妙だ。ひとまず、そいつはホテルに置くことにした。俺のバイクの隣にXT250Tと、もう一台、名前は忘れた（たぶんXLか何か）、のトレールマシンがあった。

地下鉄に乗ってすすきのまで行ってみることにした。地下鉄のホームまで下りてしまえば、これはもう東京などと何ら変わることはない雰囲気だ。それにこのラッシュはどうだろう。北海道に来てま

でラッシュの電車に乗るとは思わなかったので、どこか可笑しかった。

「すすきの」で降りる。一体どんな所かと思っていたが、要するに見た目なんの変哲もない繁華街だった。ちょっと期待を裏切られた。

どんな店に入っているかわからないが、ともかく少し歩いた。が、いいかげん疲れていたから「番屋」という見慣れた名前を見つけたので、そこへ入ってしまった。確か名古屋でもワシントンホテルに泊まって番屋に入ってたっけ。

狭いカウンターでビールを飲む。今日もビールが美味い！一人で飲んでいると、隣に女だけの二人組が座った。顔はよく見なかったが、話しているのを聞いていると、ごくごく健全なOLといった感じだ。これが地元なら、きっかけをつかまえて話し相手になってしまうのだが、一体どーしたものか。けっこう迷ったのだが、今の俺はツーリングライダーなのだから、と思ってやめてしまった。

俺は一人でその店を出た。たった二千円だった。

まだホテルへ帰る気になれない。ネオンの輝きはじめて街を少しぶらついてみる。ネオンというのはどこでも良いもんだ。映画館の入り口で「スーパーマン」でも観ようかと思ったが、時間が合わなかった。次にゲームセンターでバッティングマシンをやってみるが、酔っているせいもあって、バットとボールがほとんど当たらない。疲れただけだ。

地下鉄を一駅だけ乗って、大通公園へ行ってみる。

公園には提灯なんかが並んでいるし、ビヤガーデンもできていた。ここもたいへんな人出だ。

そんな風景を見ていると、北国の人間が束の間の夏を精一杯楽しんでいる、といった風情がひしひしと伝わってくるから不思議なものだ。

公園のベンチに座ると何故かくつろいでしまった。長い時間、そこに腰掛けて大通公園の夜景を見ていた。テレビ塔も、なかなか美しく輝いていた。

大通公園から見当をつけて札幌駅のほうへ歩いたつもりだったが、さっき見たばかりの「狸小路4」というアーケードがあった。また

すすきのに引き返してしまったのだ。情けなくなって、来た道を引き帰した。

駅前のラーメン屋で冷やしラーメンを食った。壁に向かってカウンターのような席ができている。おかしな造りだ。が、ちょうど目の前に北海道の地図があった。その地図を見ながら、今まで走ってきた長い道のことを考えた。よく走って来たものだ。もうすぐ、このツーリングも終る。そう考えると感慨深い。

ホテルに戻ってから、明日走るコースを見当をつける。今日は都会に埋もれたような一日だったが、明日は実質的にツーリング最後の一日だ。思いきり走ってやろうと思った。それに、あのピースサインを再び交わしてみたい、と思っていた。

いよいよ、あと一日・・。